

光子の部屋 2013 9月号



2013 年度前期 主な活動報告



6月8日 平山光子 後援会の集い

たくさんの方々に参加いただきました。支援者の皆さんからも、子育てや教育、平和活動などの問題提起をしていただき、私のこの一年の活動報告などを行いました。参院選の前に、私達が目指す「人やくらしが大切にされる社会」実現のための取り組みについても確認しました。皆様のご支持で、野田国義さん、神本美恵子さん共に当選を果たされました。

6月18日 6月議会一般質問 (前号で報告)

7月15日 第45回死没囚人労働者慰霊の法要

仏教会池尻正信会長は「差別のない社会にしていけることが非業の死を遂げた方々への供養になる」保存会的那須俊春会長は「過去の歴史に学んでこのようなことが二度と起きないように次世代に伝えよう」と訴えられました。三池炭鉱で過酷な労働を強いられた囚人は6万人以上、死者は2400人を超えるということです。



災害時の話を聞いた旧大槌町役場前



8月1日~3日 東日本被災地岩手県視察

福岡県下の女性議員9名で、岩手県盛岡市、大槌町、釜石市、陸前高田市を訪れました。私は2年ぶりの訪問です。行政対応もしていただき、震災を伝える語り部もおられました。しかし、被災した住民の方々の厳しい環境はまだ続いています。離れた地域に住む私たちは、被災地への思いを長く持ち続ける必要があることを改めて感じました。



8月17日 20日 フラダンスで高齢者施設、サロン訪問

大牟田市岬の高齢者福祉施設サンホリディー、中手鎌公民館を訪れ、フラダンスを披露しました。私たち福退教の4名と、草木公民館の方々など総勢11名のフラガール(?)でした。先生方の踊りはさすが!! 私はいっぱい間違えましたが、皆さん温かい拍手をくださいました。派手な衣装が元気の素です。



8月23日~25日 与論島訪問 大牟田教育文化交流訪問団

2年ぶりに訪れた与論島、今回も、田中教育長始め大勢の島の皆さんとコバルトブルーの美しい海が迎えてくれました。大牟田から与論高校生に進んだK君とも会い、南国の花々、おいしい地元料理、そして、何より本当に親切で温かい島の人々、今回もしっかり癒されました。しかし、今年、与論は大変な干ばつとのこと、島の主産業のサトウキビの畑があちこちで枯れかかっています。島の方々の生活はさぞ大変なことでしょう。

大牟田市議会議員 平山光子活動報告

つながりあって元気に

43
2013 9月号

猛暑 そして豪雨の夏

最高気温の記録更新 高知県四万十市で41度
猛暑日の連続、頻発する熱中症の救急搬送
「これまでに経験したことのないような大雨」
「直ちに命を守る行動を」と、各地でゲリラ豪雨

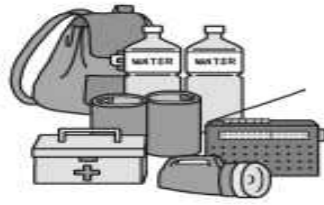
今年は大変過酷な夏でした。地震の頻発や火山活動の活

家庭の備えは大丈夫?

発化なども懸念されています。災害が少ないと言われていた大牟田市ですが、いつ大きな災害に見舞われるか油断はできない自然環境に変わりつつあるようです。

いざという

時の行動、家庭の備え、地域の安全対策、しっかりと見直しがいらしますね。



- ・非常食 3日分
- ・インスタント食品、乾パン
- ・クラッカー、缶詰など
- ・飲料水 3日分
- ・一人1日3リットル
- ・懐中電灯 ・救急用品
- ・携帯用ラジオ ・電池
- ・現金 ・健康保険証
- ・衣類 ・貴重品 など
- ・リュックサックなどにまとめておく

大規模な災害時、公助はすぐには届きません。まず、備えを!

防災対策室

平山光子後援会

事務所
大牟田市原山町1-5
0944-53-1661
自宅
大牟田市倉永1651
0944-58-1252
メールアドレス
mitsuko2007@tng.bbq.jp
ホームページ
www.mitsuko-hirayama.net

議会報告会終わる

8月30日、市内9カ所で行った市議会報告会が終了しました。2013年から始めて、今年はいよいよ三回目です。地域の安全対策、通学路整備など、いただいた意見の中で、議会で合意し対応を急ぎ実現させたものもいくつかあります。年々少しずつ参加していただく方が増えています。それでも今年の参加者は合計207名。まだまだ市議会への関心が高いとはいえない状況です。女性や、若い子育て世代の方にもっと参加していただけたらと思います。

思います。

今後、皆さん方からの意見は、議会質問の中に反映したり、集約分類し、結果は議会だよりで公表されます。また、議会として、次年度に向け課題の総括などを行っていきます。





大牟田と与論島

100年を超える深いつながり

注目される三池炭鉱の歴史

今、大牟田市は他の10市と共に、飛躍的に日本の近代化を進めたとして三池炭鉱関連施設の世界文化遺産入りを目指しています。施設等の整備が進んでいますが、多くの市民の声、そこで働いてきた人々の様々な苦難の歴史も含めて伝えていくべきだ、等の意見を受けて、まちづくりプランが作られました。改めて本市の歴史を再認識しようとするものです。

島を襲った台風と大飢饉

1898年、台風と大飢饉が与論島を襲いました。翌年、生きる糧を求めて島民240人が長崎県口之津に移住し、三池炭鉱の石炭を大型船に積み替える仕事に従事しました。1908年、三池港が開港すると大型船が港に入るようになり、口之津に住む与論島出身者428人が大牟田市に移り住み、港湾労働に就きました。当時の労働条件は大変劣悪、また、島の文化を大切に生活する島出身の人々への差別・偏見もありました。

教育交流に触れて

2010年、私は初めて与論を訪れ、与論3小学校と東京東十条小学校との教育交流30周年の記念行事に参加しました。子どもは卒業したけど自分だけ毎回同行しているという東京のお母さんも

加しておられました。大変有意義な交流が続いてきたことがわかりました。大牟田でも、与論の先人が大牟田に移住してから100年を機に、大牟田の与論会の方々と共に与論島を訪問した先生方によって、子どもたちが互いに交流し合う教育交流が始められています。

2011年は2人の中学生が参加してホームステイし、その一人は、昨年与論中学に留学し、今春、与論高校に進学しました。その陰には、関係校の教職員や与論の方々の大きな支援があります。

厳しい自然環境の中で

最初の訪問ですっかり心奪われた美しい花々、まさにバナ（花）ウル（珊瑚）王国だと思いましたが、次の年、台風による塩害（潮風）で植物が大変な被害を受け、花も木の葉なども枯れていました。また、バナツタが大発生して芭蕉などの植物の葉を食べつくしていました。数年おきに起きることで、昨年台風被害、訪問団も中止でした。



大変なことでしょう。それでも人の絆を大切にしながら黙々と逞しく生きておられる素朴な温かさに改めて感動します。

子ども達の未来に向けて

現在、大牟田市には与論ゆかりの方がたくさん生活しておられます。また、与論には、大牟田の学校の卒業生がいたるところにおられ、大牟田から来た旅行者を大変歓迎してくださいます。与論では、公的な教育交流の環境はすでにつくられ、大牟田が



8月9日 被爆から68年 原水禁長崎大会に

8日 平和長崎集会（県立総合体育館）

長崎市田上富久市長 核廃絶への強い思いを表明、被爆の語り部奥村アヤ子さんの訴え（8歳で被爆、8人家族が次々と死亡、一人になってしまった、46年間話せなかった、平和の原点は、人の痛みが分かる心・・・）

9日 銭座小学校（爆心地から1.5キロ）慰霊碑に墓参

68年前、一瞬にして500人も子どもが犠牲に。

原水禁長崎大会閉会総会（県立総合体育館）

高校生平和大使の決意表明などに元気をもらう。

爆心地公園（松山町）まで平和行進 11時2分 黙とう

68年前、長崎に落とされた一発の原子爆弾は一瞬にして7万人もの命を奪い、多くの人の当たり前の人生を奪いました。新聞報道によると、この一年間に3404人が亡くなり、長崎原爆による死者は合計16万2083人になったということです。



決意を語る高校生平和大使



墓参をすませた銭座小学校で 大牟田と柳川みやまの総勢38名

平和市長会議

世界中の多くの市民は核廃絶と平和な世界の実現を願っています。広島・長崎から提案された平和市長会議（今年から平和首長会議）には、2013年8月1日現在、世界157か国・地域の5712都市、日本国内では1360都市、福岡県下の58市町が加盟しています。

私は2009年の9月議会質問で大牟田市も参加すべきと提言しました。その年12月大牟田市の加盟が決定しました。



爆心地公園で千羽鶴を捧げ黙とう

高校生平和大使「微力だけど無力ではない」

核廃絶と平和な世界の実現をめざし、高校生一万人署名に取り組む高校生の代表が、高校生平和大使として国連にその署名を届ける活動を1998年から続けています。今年も20名の平和大使によってジュネーブの国連本部に19万筆を超える署名が届けられました。

核のない平和な世界をめざして

現在、非人道的な核兵器（核弾頭）が世界には1万7千発以上も存在します。

5年ごとに開催され核不拡散条約（NPT）再検討会議の準備委員会で提案された「核兵器の非人道性を訴える共同声明」に80カ国が賛同しましたが、被爆国の日本政府は署名しませんでした。福島原発事故も経験し、事故処理の困難な状況が続いている日本は、世界のどこの国よりも「核と人類は共存できない」ことを身をもって経験している国です。平和憲法の理念を高らかに宣言し核廃絶の先頭に立つてもいいのではないのでしょうか。

中東の混迷、国内では憲法の平和主義を改正しようとするなど「核のない平和な未来」への道のりはますます厳しい情勢です。また、原水禁、核禁会議、連合の三団体で行われていた平和大会が、「核のない世界をめざす」と「核の平和利用」という考えの違いから別々の開催となりました。しかし、一人ひとり「微力だけど無力ではない」と頑張る高校生に学んで、できることをあきらめずに続けていくことが私達大人の責任ではないかと思えます。